

命のパンとなるために

ルカによる福音書 15 : 11 - 24



司祭 ヨハネ 井田 泉

2025年3月30日

大齋節第4主日

京都聖三一教会にて

先ほど、大斎節4主日の特祷を献げました。特祷は司式者だけが唱えることもあり、あっという間に過ぎ去ってしまうかもしれません。けれども今日の特祷は特に大切な内容を含んでいますので、この祈りを味わってみることにしましょう。

ところで「特祷」は英語では“collect”です。「集める」という意味ですね。これは皆の祈り、会衆一人ひとりの祈りを集めてまとめたもの、ということです。聖公会の始まり、16世紀の英国の宗教改革の際、トマス・克蘭マー大主教を中心として英語の祈祷書が編集されました。それまでの礼拝はラテン語で行われていたものを、自分たちの言葉で礼拝を献げようという強い願いと意志をもって作られたのが祈祷書です。そのときに特祷も、皆が一緒に心を込めて祈れるように、苦心して整えられたのです。それですから、わたしたちも特祷を大切に祈りたいと思います。

さて今日の特祷は大きく四つの部分に分けられます。第1は神への呼びかけです。

「恵み深い父なる神よ」

第2は神の恵みの業の確認、言い換えると信仰告白です。

「み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。」

第3は祈願、祈り求めです。

「どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主が

わたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。」

そして最後、第4は結びです。

「父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン」

このように「呼びかけ」「信仰告白」「祈願」「結び」の四つから成っています。内容に入っていきます。

まず呼びかけです。「恵み深い父なる神よ」。この呼びかけには何が込められているのでしょうか。神への信頼です。神さまはわたしたちに対して恵み深い。信頼して呼びかけるのです。同時に、「わたしたちはあなたを恵み深い方と信じていますので、どうか今もこれからも必ずそのようであってください」という願いもこめられてよいでしょう。

神に呼びかける。自分の中でだけ思ったり考えたりするのではない、新しい世界が開けます。神とわたし（たち）の間に交流が生まれます。

第2です。神への呼びかけに続いて、神の恵みの業を神に向かって述べました。

「み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。」

神のみ子イエス・キリストの受肉・降誕、クリスマスの出来

事を述べたのです。これはみ子の降誕を大切な神の救いの出来事と信じるわたしたちだからこそ、そのように表現するのです。信仰告白です。

わたしたちの祈りを振り返ってみると、圧倒的に願い求めが多い気がしますが、祈りの中で神さまのみ業を記憶して言葉で表現することも大切です。例えば、「神よ、あなたはわたしたちを造られました。」「主イエスよ、あなたはわたしの救い主。」これも大事な祈りです。

「み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。」

み子が天から降ってこの世に来られたのには目的がありました。それは「すべての人のまことの命のパンとなるため」です。あるときイエスはこう言われました。

「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。」

ヨハネによる福音書 6:51

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」ヨハネ 10:10

神さまは、わたしたちが弱り果てるの見て、耐えられなかった。わたしたちに命を与え力づけようとして、み子イエスを送ってくださいました。

第3は祈願です。これが特禱の中心と言ってよいでしょうか。

「どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。」

「わたしたちを養ってください」。養われなければ、わたしたちは衰弱します。体も、心も、信仰も同じです。「この命のパンによって養ってください。」「この命のパン」とはイエスさまのことです。イエスの存在、イエスの言葉、イエスの行動、イエスの命によって、わたしたちを養ってください。この祈りは、イエスの来られた目的、イエスの願いと完全に一致するものです。

「常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。」

前半と後半で二重のことを願っています。

まず「主がわたしたちのうちに生き」てくださるように。主イエスが遠い所におられるのではなく、間近に、もっと近く、わたしたちの中に、わたしのうちにいてほしい。宿ってほしい。わたしたちの中で生きてほしい。イエスがわたし（たち）の中におられるなら、わたしたちはイエスの影響を受けます。力と愛を受けます。

わたしたちがその必要を知る以前に、神はわたしたちにそれが必要であることをご存じです。それで神は主イエスを、三重の仕方でわたしたちのうちに宿らせてくださいます。

一つは、御言葉、聖書の言葉をわたしたちに宿らせてくださる。二つは、聖餐、パンとぶどう酒という形をもって、イエスをわたしたちのうちに宿らせてくださる。三つは、聖霊、イエスの霊をわたしたちのうちに宿らせてくださる。わたしたちが願う前に、神さまのほうを用意してくださるのです。

「常に主がわたしたちのうちに生き」てくださいますように。生きて働いてくださいますように。

この祈りの後半は、その逆です。

「わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。」

前半は「主イエスがわたしたちのうちに」だったのですが、後半は「わたしたちが主イエスのうちに」生きるようにしてください、という祈りです。どういうことでしょうか。

今日の福音書、放蕩息子の物語を思い出してみましょう。二人息子の弟のほうに、父親から財産を分けてもらって家を出て行きました。彼は放蕩の限りを尽くして何もかも使い果たし、ついに飢え死にする手前にまで至ります。ここで彼は我に返って父親のもとに戻って赦しを乞う決心をします。戻って来る子を見つける父親について、こう言われていました。

「彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。」ルカによる福音書 15:20

息子は父親の愛に包まれました。神の愛に、主イエスの愛の

中にわたしたちは包まれる。主イエスに包まれて主の愛のうちに生かされて生きるようにしてください。これがこの祈りの意味です。

パウロはこう言いました。

「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ている」ガラテヤの信徒への手紙 3:27

衣服の譬えです。キリストを着て、キリストに包まれている。守られている。イエス・キリストの愛と力に包まれて守られ、生かされている。

すでにわたしたちに与えられている事実が、もっとはっきりしたわたしたちの力、喜びとなるように祈るのです。

「常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。」

主イエスに招かれて、この方のものとなったわたしたち。主イエスをわがうちに宿し、また主イエスのうちに包まれ生かされて、そして成長していきます。神の国の働き人として養われ育まれていくのです。これがわたしたちに与えられた祝福です。

今日の特祷を一緒に祈りましょう。

恵み深い父なる神よ、み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうかこの命の

パンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに
生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。
父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主
イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン